

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年7月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900135
法人名	社会福祉法人 隼仁会
事業所名	グループホーム はやひと
所在地	鹿児島県伊佐市大口青木3023番地14 (電話) 0995-22-2333
自己評価作成日	平成29年4月21日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、協力医療機関(大口温泉リハビリテーション病院)、特別養護老人ホーム等との医療福祉ゾーンを形成している。旧大口市から委託業務としてスタートしたグループホームである。職員は理念に沿ってケアしている。一人ひとりを大切にして暮らせる家を目指し、入居者を家族の一員として、当たり前暮らしを支援している。近所の小学校周囲を日常の散歩コースとして、子供たちとの交流もあり、学校行事等に参加している。管理者・職員は、家庭的なホームを目指し、意欲的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、社会福祉法人が運営するグループホームで、医療機関・特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・ケアハウス・デイサービス等が同敷地内にあり、医療連携体制が整っている。地域住民の避難場所にも指定されている。
- ・地域の行事や小学生と茶摘みの交流や芋ほりなどに参加し地域と交流している。中学生の職場体験学習や高校生のボランティア・大学生の職場体験学習などを引き受け、事業所の力を活かした地域貢献をしている。
- ・職員は入居者の一人ひとりを把握し、利用者への気づきを大切に問題意識をもって対応している。職員は事例研究にも取り組み、介護の意識の高場につながっている。
- ・利用者の残存機能を大切にして保持・増進に努め、特に排泄支援は改善例が多い。
- ・管理者や主任は職員を育てることに力を入れ、研修会や勉強会の環境を整えている。職員のコミュニケーションも良く温かな熱意のある支援に家族からの信頼が厚い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を基盤にしなが ら、毎日のミーティングの中で理 念を唱和し、事業所理念の実践を 確認し合っている。また、理念を 具現化し、独自の目標を持って取 り組んでいける様に努めている。	地域密着型サービスを踏まえた ホーム独自の理念を作成し、ホー ルや玄関・パンフレット・契約書 に掲示している。理念は、毎日、 ミーティングで唱和して確認・意 識づけをしている。毎年、職員は 個々の理念を具現化した目標を 「私の決意」として発表し、実践 につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし 続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している	地域の小学校の茶摘みや文化祭な どに作品を展示したり、ボラン ティア訪問などで地域の方と交流 ができるように努めている。	自治会に加入し、近くの小学校の 茶摘みに毎年参加したり、入居者 の作品を文化祭に出品・地域のボ ランティアの訪問があり、大正琴 や踊りなどで楽しく交流してい る。中学生・高校生・大学生の体 験学習の受け入れや地域の方が習 字を教えに来られたり、日常的に 交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げてい る認知症の人の理解や支援の方法を、地 域の人々に向けて生かしている	地域中学の体験学習の受け入れや 小学校との交流・学生ボランティ ア訪問の中で、認知症の理解や関 わり方が学べる機会になるように 取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価の実施結果や取り組み内容・日常のサービスの内容・ヒヤリハット改善策の実践状況報告等について報告している。また、意見交換を行い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>会議は定期的開催している。入居者の現状や行事報告・ヒヤリハット・外部評価結果報告・地域密着型連絡会の報告等を行い、防災関係の情報などを聞き意見交換している。四季を感じる景観の外出支援や防災訓練の反省など、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域密着型サービス連絡会の中で研修会の実施や事業所内での取り組み内容・外部研修の内容等を伝え、他事業所とも意見交換を行い外部の意見を取り入れながら日頃のケアに役立てている。</p>	<p>日頃から役所に出向き、事業所の状況を伝えながら相談や助言を得て協力関係を築いている。運営推進会議に参加してもらったり、地域密着型サービス連絡会では連携を密にとり、意見も取り入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>言葉の拘束を追加し、見えない拘束にも意識を高めると共に、マニュアルはいつでも確認できる様に提示し、勉強会に活用している。また、マニュアルに沿ったケアが実践されているか毎日のミーティングの中で確認し、定期的にマニュアルの見直しを行っている。</p>	<p>マニュアルを基に年間を通して外部講師を招き研修を行い、定期的に勉強会をしている。身体拘束のみならず、言葉や見えない拘束についても、勉強し、定期的に見直しをしている。日中は玄関の施錠はしていない。外へ出たい利用者には、状況を把握して職員が同行し散歩したり、行きたい所へ一緒に出かけ対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の企画する勉強会や施設内の研修を行い、何が高齢者虐待になるのか具体的に学び、個別の認識度を確認すると共に、日々行っているケアが該当していないかミーティングの中で振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加を通して制度の理解に努めているが、現在までに制度の活用事例は無い。法人の広報誌にも掲載し、利用者家族をはじめ地域住民に配布している為、制度の啓発につながっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学や施設体験を含め、十分に説明を行い入居決定していただいている。退居時にも本人、家族と十分に話し合い、退去後にも生活に不安が残らないよう、関係機関と共に連携を蜜に行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画説明の他、アンケート用紙にも意見を記入していただき、相談のあった内容は貴重な意見として捉え、管理者を含む職員全員で検討して可能な限り要望に副えるようにしている。	利用者からは、日頃のケアの中で把握している。家族からはアンケート調査や家族会・面会時等に話し合いを行い、意見を聞いている。遠方の家族には、お便りで対応している。居室変更やベッドのマットリースについての要望等があり、日頃からコミュニケーションを図り意見が言いやすい環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、ミーティングや職員会議等が出た意見や提案と一緒に検討しながら、結果を代表者に伝える必要な場合改善するように努めている。</p>	<p>管理者を中心に毎日のミーティングや職員会議の時に意見や提案を話し合っている。全職員のミーティングも行っている。管理者は個人的に職員との面談の機会を持ち相談に乗っている。出された意見は運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々の勤務状況を把握し、努力結果に応じられるような体制をとっている。また、各研修会への参加の推奨、資格取得なども積極的に勧めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を作成し、ミーティングや職員会議を活用しながら研修を行っている。参加できなかった職員には伝達講習を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者と2ヶ月に1回、地域密着型連絡会を実施しており、研修会等に交代で参加できるようにしている。また、年に1回の外部講師を招いての研修には職員全員が参加できるような体制をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時から計画作成担当者が担当し、入居前の面接・入居時に把握するように努めている。入居後は担当者が信頼関係の中から、本人の思いやニーズを引き出し「私の姿シート」を作成、ミーティングの中で意見交換している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談開始から計画作成担当者が自宅や施設を訪問し、入居に当り心配事や要望などを聞いて安心して入居できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時に表出される希望だけでなく、関わりの中から見えてきたニーズにも目を向け、適切なサービスの選択ができるように情報提供・対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の意思を尊重しながら望まれるようなケアの方法を検討したり、本人の特技や季節の行事の食品作り等を生活の中に取り入れ、一緒に行うことで双方が学びあえる関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活歴や過去の出来事などを教えていただき、家族と共に本人の思いに応じていく方法を検討し実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の話題や家族からの情報などで、馴染みの人や場所に触れ、本人の思いに応じていく方法を検討。遠方の家族とも手紙や絵で元気な様子が確認し合えるように支援している。	馴染みの人や場との関係は入居時に把握している。日常の会話や家族からの情報で『私の姿と気持ちシート』を作成し、思いに対応している。友人がおみやげを持ってきたり、知人の家に出かけることもある。美容室や墓参りは家族の協力を得ている。馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や特徴を把握し、入居者同士が気兼ねなく安心して過ごせるように配慮しながら、トラブルやなどで孤立してしまわない様に適切に介入している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても新しい環境に慣れるまでは退所先の病院等を訪問し、必要な情報を提供したり、家族と共に情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や会話などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族から得た情報などをミーティングで相互に確認し、本人の思いに添えるようにしている。	日頃の関わりや申し送りノート、気付きシートから把握している。自分の思いを伝えられる人が多く、ゆっくりした時やお風呂の時などに把握するようにしている。困難な場合は家族から聞いたり日ごろの行動や言動から把握している。特定の職員に心を開くときもあり、ミーティングで確認し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時から入居後の面会時などあらゆる機会を通して、本人と家族から把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の仕方や生活歴を尊重し、その人らしい生活ができるように希望や一人ひとりの能力が活かせるように配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望や意見を把握し、専門職の意見も参考にしながら原案を作成。面会時などを利用してご家族同席で担当者会議を行い、気付きや意見を出し合いそれらを反映した介護計画を作成している。	主治医の意見をベースに本人・家族からの要望や専門職や現場職員の意見を参考に担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に行っている。変化があった時はその都度見直しして、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の健康状態や日常生活がわかるように具体的に記録している。また、情報を共有しながら、個々の職員の気づきを含め、ケアの実践・計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況に柔軟に対応できるように努めている。また、医療連携体制を活用した定期的な看護職員による健康管理など柔軟な支援ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動等を利用して、これまで続けてきた本人の力が発揮できるように働きかけ、充実した過ごし方が続けられるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃受診されていた医療機関とも情報を提供し合いながら適切な治療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を大切にかかりつけ医の受診を支援している。母体の協力医療機関をかかりつけ医にしている利用者が多い。回診が1ヶ月毎にあり、緊急時にも医療連携体制が整っている。皮膚科や眼科は家族の協力を得ながら対応している。他科受診も家族または職員が同行しており連携を密に取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	大口温泉リハビリテーション病院と業務委託契約を結び、日常の健康管理を行うとともに常時対応可能な支援体制の整備に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が付き添い、入院後も定期的に訪問して医療スタッフとの情報交換を行い安心して医療サービスが受けられるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期について希望を聞いて医療が必要になった場合や疾病の悪化に伴ない、本人・家族の希望に添えるように支援するとともに、方針の共有に努めている。疾病の種類によっては、早い段階で家族と終末期のあり方を確認している。	入所時に終末期についての希望を聞き、医療が必要になった場合や疾病の悪化に伴い、本人や家族の希望に添えるよう支援することを説明している。家族の意向を大切に、関連施設を視野に入れながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急講習を受講している。緊急時の対応については定期的に勉強会や講習を受け、急変時は職員全員がマニュアルに沿って行動できるような体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所独自の地震・豪雨マニュアルを作り訓練に活かしている。また、法人の総合防災訓練・事業所独自の訓練を定期的に行い、入居者にも参加していただいている。豪雨・地震についても法人の危機管理計画に沿って行動できるようにしている。</p>	<p>年1回、消防署立ち合いのもと、法人の総合防災訓練を実施している。事業所独自の防災マニュアルを基に事業所の自主訓練は2ヶ月毎に行い、通報装置や火災報知器の点検などを行っている。地域の消防団の参加があり法人や地域の協力体制も整っている。自家発電機は24時間対応である。備蓄は法人で常備しているので訓練の時、確認している。地震や豪雨などの地域の避難場所にもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項説明書にも明記し、職員会議の中でも個人情報の保護法や守秘義務について研修を行っている。日常生活の中でもプライバシーが損なわれないように個別のマニュアルを作り定期的に見直しを行っている。	研修会を行い、日頃から人格の尊重やプライバシーに配慮したケアに心がけている。利用者一人ひとりの「個別のマニュアル」を作成して活用している。定期的に見直ししている。トイレ誘導・名前の呼び方・入室・入浴介助などに配慮している。重要事項説明書にも明記し、会議でも個人情報保護法や守秘義務について研修している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重しながら、失語症の勉強会なども行い、非言語的コミュニケーションなどを大切に、納得した判断ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や状態に合わせて柔軟に対応している。毎日のミーティングの中で業務優先になっていないか確認しあっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望や家族の意向に応じ、好みの服装などができ、おしゃれをすることで生活に楽しみを持っていただくように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を実施し、誕生会など希望の献立を作り、個々の力量に応じて職員と一緒に準備や後片付けを行っている。食事も職員と楽しく会話ができるようにしている。	毎年、嗜好調査を行っている。味付けや献立に配慮しながら、行事食の花見や誕生会を楽しんでいる。利用者個々に野菜を切ったり、台拭きをしたりしている。ホットケーキやちまきづくりをして楽しんだり、梅・ラッキョウ漬などを職員と一緒に作っている。家族と外食する利用者もいる。栄養士作成の献立で、ホールに掲示し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居の希望を基に献立を検討し、法人の管理栄養士に栄養バランスなどを検討してもらいメニューを決定している。食事摂取状況や水分摂取量・体重測定を定期的に行い、観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力の状態に合わせて毎食後の口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時にオムツ外しの同意を得て、個々の生活パターンを把握しながらプライバシーに留意し、時間毎に誘導、トイレでの排泄を基本にしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに気配りしながら時間誘導している。入居時に同意を得て布おむつで対応している。改善例が多く自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看・介護表で排泄状態の把握に努め、水分補給・食物繊維や毎日のラジオ体操・室内歩行等に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者の希望に応じ、毎日でも入浴ができるような体制をとり、一人ずつゆっくりと入浴できるように支援している。また、冬場は希望があれば就寝前に足浴なども実施できる体制をとっている。	入浴施設は温泉であり、毎日でも入浴ができる。浴槽は広くゆったりしている。入り口に入浴表を掲示して入浴の状況が分かるように工夫がある。入浴を拒む利用者には時間をずらしたり、声かけのタイミングを図り無理はしないようにしている。足浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して安眠できるように配慮し、思い思いの休息の方法や個々の睡眠パターンに応じて柔軟な対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作り、定期的に勉強会を行っている。また、個々の薬の種類や効果・副作用等を把握し、個々の能力状況に合わせた服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や現在の能力に応じて、家事の役割を担っていただいたり、趣味や興味のあるものに取り組めるように環境を整え、活動し易いように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族やボランティア等の協力を貰いながらお墓参りや気になる場所など個々の希望に応じながら支援している。	日常的な外出は近隣を散歩したり、家族やボランティアの協力を得て季節ごとに桜やバラを見に出かけている。周辺に小学校があり芋ほりやお茶摘みにも出かけている。年間計画があり家族の協力を得て遠方外出もしている。実家や昔住んでいた所に出かけることもある。家族と弁当持参で花見に行ったり、希望に応じて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に合わせて支援し、誕生日の買い物の時や外出先の売店で自ら選んで支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時の電話のとりつきや、年賀状・暑中見舞い等便りを書きたい家族や友人と連絡ができる様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音やつけっ放し状態がない様に配慮し、職員の大きな声や行動が不安を招かない様子を気をつけている。カーテン等で直射日光などへ配慮とともに季節の花などを飾り季節感を感じられる様にしている。	ホールは天井が高く、天窓からの採光が柔らかく温度・湿度の管理が整っている。大きな窓から外の景色が見える。壁には利用者の書道の作品や曾木の滝の作品などが飾られ、季節の花もある。台所は対面式で利用者と会話ができる。広い廊下は歩行運動ができる。ソファも設置され、居心地良く過ごせる工夫がされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>椅子やソファを置き、一人になれる場所や親しい同士で個別でくつろげる場所を用意し、気兼ねなく活用できるように気配りを行っている間接的</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人の大切な物や馴染みの生活用品・装飾品等を持参していただき、居心地よく、安心して生活していただける様に努めている。</p>	<p>居室は広く大きな窓があり明るい。ベッドはリースである。面会時に便利な机と椅子があり、ダンスや洗面台が設置してある。家から持ち込まれた写真や暦・自作の作品・習字等が飾ってあり、仏壇やお花やぬいぐるみ等もあり、どの部屋も楽しく清潔な感じがする。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室には自宅から持参された暖簾をかけたり、造花や折り紙などで目印にしている。トイレや浴室・洗面所・廊下には手すりを設置し、居室内は、歩行状態に合わせて動線を短く、残存能力が維持できるように環境を整えている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない